

がんばれ!

寝ている私の目の前に寝相の悪い息子の足がニョキッと現われた。足の裏をしみじみと見る。こんなに大きくなったんだなあ。初めてこちらに向かって「トコトコ」と歩いてくれたあの日から、いっぱい歩いていっぱいこけて。もう一人前に黄色っぽく、硬くなっている…。この足で歩いてきたんだね、6年間。

小学校に入ってから、少し混乱している様子の息子。とてもよいクラスなのだけれど、ちょっと馴染むのに苦労しているみたい。頭でごまかせず、体全部で受け止めなきゃならないのだから。大人からすると微笑ましく見える1年生の世界も、大人たちからしたら立派な「社会の荒波」だ。夜中に「はらたつー!」「いやだー!」とうなされているときもある。

うん。紫色に塗ったクワガタの絵を「茶色に塗りなさい」なんて言われたら腹立つよね。わかるわかる。ほかに「なんで?」って思うことだらけなんだよね。きつと。でもね。学校って、いろんな人がいるんな考えがあるってことを学ぶ場なんだ。

だから、がんばれ。いつもお母さんは応援してる。守ってあげる、助けてあげるって思ってるけど、本当はもう助けてあげられない、とも思ってる。

だけど、どんな苦難も乗り越えられるものをあなたには渡したと思ってる。だから大丈夫。でもそれは、お母さんがあげたんじゃない、もともとはあなたがくれたもの。あなたがお腹に入ったときから、滝みたいに幸せな気持ちが降り注ぎ続けた。あなたの純粋無垢な「あい」は、お母さんの体を通して、ちょっと不純な、俗な「愛」に変わってしまったかもしれないけれど、それはこの不条理な世界を生き抜いてもらうための免疫だと思ってください。とにかくにもその2本の足で歩いていってください。がんばれ!(村上由起子)



母は、せつせと布団を掛けるわけです。でもそれは辛いことではなく、子どもを思う幸せな時間です。(内田恵利)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

子どもたちの笑顔、純粋な心だけは絶対に守らなきゃ」という強い気持ちを自分の中に発見したときです。どんなことがあっても絶対に守るんだという強い気持ち。それは今、私が「お母さんだからこそ」芽生え、しっかりと根付いたものかなって思います。でも子どもってすごくて、顔で笑って心で泣いていたら、しっかりと見抜かれてしまう。偽者の笑顔を見ても、子どもはうれしくないし幸せではないですね。だから、いつも心から笑えるように、私自身ももっと強くならなくちゃって思います。逃げずに受け入れて、前向きに生きる。そんな生き方が、子どもたちを守ることにいるんだと思います。「お母さんだから」気が

朝 出かけた子どもたちが、帰ってくるなり「お母さん、なんで?」ってさかしてくれるとき。なんだか「そこにいてくれたらいいよ」って言われている感じがして、「ありのままのお母さんでいいよ」いつも子どもは、体から、心から、そう言い続けてくれてます。子どもにお母さんにしてもらいました。「安心」や「心地よさ」をもらっているのは、実は私のほうなんだなって思うんです。(田川亜寿香)

小 さな頃の言葉にならない「ああ・おかあさん」という呼びかけも、9歳になって元気よく呼びかける「お母さん!」という声も、同じように私の中の「お母さんスィッチ」を入れてくれる。子どもが私の手を求めて「お母さん」と呼び、心と体がつながる瞬間。手のひらから伝わってくる温かな命のぬくもりと、まっすぐにこちらを見つめながら呼びかける声を聴くとき、母としてのこの上ない幸せを感じる。(西尾奈緒美)

夏 の夕暮れの空気を吸い込んだとき。冬の朝、窓の外が一面雪なのを見たとき。緑の中を歩くとき。日暮れ時の空。下の方がオレンジで、上の方が群青色を見たとき。なんともいえない幸せを感じる。理屈ではなく、心が喜び、涙がぼろり、エネルギーが充満していく感じ。あなたのすべてがオーケーよと言われていく感じ。それがイコール私が「お母さん」を感じる瞬間。自分の母を感じ、同時に自分の娘を感じる。言葉にするのがありふれているけれど、こうして何世代にもわたって、受け継がれてきた命なんだな、と、つくづく思う。自然の営みの中の生。今は、自分の一番大きな母からもらったものを、私も娘に渡していきたい。娘はどんなときに、お母さんを感じるだろう。(打海可奈子)

子 どもとり合っているときが、リアルに「お母さん」を感じる瞬間。反抗期真っ最中の小5の娘とやり合っているとき。暴言を吐いたり、場の空気を悪くしたり、気持ちをつまみ表現できない彼女の気持ちも、甘えたいけど妹を前に遠慮して甘えられずにいる気持ちも、お母さんにはわかりません。でも、お母さんだって人間。カチンと切れるサ。徹底的に無視したりその場から逃げていなくなっちゃったり。やろうと思えばできるけど、「お母さん」だからできないのだよ。「お母さん」だから真面目に向き合っているよ、「こい!」とつきあう。そんなときにお母さんを感じます。(佐々木和枝)

毎晩 何度目を覚ますことでしょうか。「あくまた、お腹出して寝て〜」と子どものお腹を掛け直すと、私とお母さんだなくと思えます。寝相が悪く、布団を飛び出し、床で寝ている子どもたち。掛け直すと「あついで」と寝ほけて文句を言われ…。それで

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

ときに「お母さん」を感じるのかも知れません。仕事帰りの電車の中で、仕事モードから徐々に頭が「お母さんモード」にシフトしていく。玄関を開けるとお風呂場からにぎやかな声とともに、さつぱり顔の息子が飛び出してきて、私に向かかって、とびつきりの笑顔をを見せてくれる。そんなとき、世界中に「私、お母さんなんです!」って言いたくなります。(渡邊智子)

私 お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

夏 の夕暮れの空気を吸い込んだとき。冬の朝、窓の外が一面雪なのを見たとき。緑の中を歩くとき。日暮れ時の空。下の方がオレンジで、上の方が群青色を見たとき。なんともいえない幸せを感じる。理屈ではなく、心が喜び、涙がぼろり、エネルギーが充満していく感じ。あなたのすべてがオーケーよと言われていく感じ。それがイコール私が「お母さん」を感じる瞬間。自分の母を感じ、同時に自分の娘を感じる。言葉にするのがありふれているけれど、こうして何世代にもわたって、受け継がれてきた命なんだな、と、つくづく思う。自然の営みの中の生。今は、自分の一番大きな母からもらったものを、私も娘に渡していきたい。娘はどんなときに、お母さんを感じるだろう。(打海可奈子)

毎晩 何度目を覚ますことでしょうか。「あくまた、お腹出して寝て〜」と子どものお腹を掛け直すと、私とお母さんだなくと思えます。寝相が悪く、布団を飛び出し、床で寝ている子どもたち。掛け直すと「あついで」と寝ほけて文句を言われ…。それで

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

「私」お母さんなんだなって思うとき。子どもも手をつないで散歩しているとき。母の日に手づくりカードをもったとき。子どもが3人とも同じ格好で並んで寝ているのを見たとき。子どもをきつく叱ったあとで胸が痛むとき。ベランダにかわいい洗濯物が並んで風に揺れているとき。子どもが熱を出して心配で眠れない夜を過ごすとき。取れたボタンや帽子のゴムをあつという間に直せちゃうとき。誰が私の隣で寝るかで子どもたちがケンカするとき。子どもに勉強しなさいと言っているとき。朝、子どもが幼稚園に行きたくないと言ったとき。子どもの上履きを洗っているとき。床にこぼれた牛乳を拭いているとき。見知らぬ赤ちゃんが笑ってくれたとき。自分で自分のことを「お母さん」と言ったとき。(加藤知子)

ポーちゃんの家

2年前、2人目の孫が長女のお腹に宿ってくれた。が、残念ながらその子は、空に帰っていった。赤ちゃんの命がない悲しさと不安が、そのときの私を襲った。が、娘の主治医(池川明先生)は、娘に、「幸せな流産」を提案してくれた。流産すると病院で処置をされるのが一般的。だが、池川先生は「流産もお産だよ」と、娘に、自然にお産ができることを教えてくれた。自然なお産を待っていていいの。娘の体は大丈夫なのか。頭の中にある知識(常識)で考えると心配がよぎる。だが、じっと目を閉じて母である自分の心に問いかけてみる。母とは、命とは? そう考えたときに、空の上から娘を選んで来てくれたポーちゃん(お腹の中の胎児に、その名前を付けて呼んでいた)が、大好きなママの体を、痛めるはずはない。小さな確信のようなものを感じた。娘は3日後、パパと長男のたつくん(当時2歳)のそばで自宅出産。娘は、生まれたポーちゃんを小さなタッパーに入れて、池川クリニックへ。「きれいに生まれてきたね。ママに抱っこされて、ポーちゃんもきつと喜んでますよ。よかったね」と先生。その言葉に娘の心は癒され、流産の悲しみは、少しずつ解けていった。「短い間だったけれど、ポーちゃんは、私を選んで来てくれた。またいつか、来てくれるよね」涙を流しながらも、娘は笑顔を見せた。世の中には、流産を経験した人も多いだろう。その多くが病院で処置をされ、周囲からは母親失格のレッテルを貼られ、心も体もスタスタになり、悲しみだけが残る。同じ流産でも、辛い流産と幸せを感じる流産がある。私は3人の子どもを産み育て、長年子育てに関する仕事をしてきた。けれども今でも、自分は何をやったのか。世間の間違った情報や常識に翻弄され、さもわかったような顔をして、実は何もわかっていなかった。ポーちゃんが生まれた3日後に、娘と夫、たつくん、ポーちゃんの4人は、飛行機で沖縄の竹富島へ旅立った。最初で最後の家族4人の旅…。エメラルドグリーンの海、シュッと、広い海を泳いでいったという。この海(写真)は、ポーちゃんが今も生きている海。この海には、母の悲しみと、同時に、喜びの涙が流れている。だから、ポーちゃんも安心して泳げるだろう。娘から聞いた話。いつもママのおなかに「おやすみ!」と言っていたたつくんが、ポーちゃんが生まれたその日の夜に限って、ママのお腹ではなく、ママの胸のところで「おやすみ」と言ったという。たつくんは、わかっている。ポーちゃんはお母さんのお腹の中にはいないけれど、ママの心に生きています。娘や孫が、命をもって私に伝えたかったこと。それを伝えるのが、私の残りの人生の仕事だ。(お母さん大学学長代理 藤本裕子)